

丹波中学校だより

清流の辺

せい りゅう ほとり

平成27年12月16日(水)

No. 15

文責 丹波中学校長 梶原勝由



私の勉強方法-中学生編

担当は教頭先生です
(次回からは「私の好きな一冊」です)

だいぶ前のことで記憶もおぼろげである。それでも、一番勉強したのが中学校の時であったように思う。授業が面白かったから、良く聞いて、考えて、発言していた。家に帰ると、英語の単語や国語の漢字など、覚えが悪かったものだから、ノートに覚えるまで書き続けていた。数学は分からなかったところは質問し、あとはひたすら教科書やワークの問題を解いていた。自分で解けるようになると段々面白くなっていった。理科や社会に関しては、当時公立高校の入試科目になかったが、先生の話をよく聞いていた。聞いているだけで面白かったし、特に、理科の実験はいつも楽しみで驚くことが多かった。昔の先生は乱暴で勉強の仕方など教えてくれなかった。自分なりのやり方と勉強のペースを掴むまでには、我武者羅に教科書を読んだり、ノートを自分なりに整理し直したり、問題を解いたり…とやるしかなかったように思う。そこから、自分にあった勉強方法が見つかっていったような気がする。

私の中学生の頃

担当は堀内翔子先生です(今回は堀内理沙先生です)

私の出身中学校は富士吉田市立吉田中学校といえます。校舎の窓からは、まさに北斎の絵のような美しい富士山が見えます。吉田中学校の愛称は「吉中」または「よた(悪いこと)中」。学校ではいつも大小の事件が発生し「先生方職員室にお集まり下さい」という放送がよく流れました。そんな吉田中学校で私は3年間を過ごしました。

私が中学校時代一番がんばったことは部活動です。卓球部に所属していました。同級生の女子部員は私を含めて6人でしたが、だんだんと私以外の部員が部活動に来なくなりました。理由は「面倒くさい」から。部活に燃えていた私は、男子に混じって練習し強くなりました。ただ女子の部員が来ないのがずっと不安で、毎日呼びに行っては断られるのをくり返しました。そんな状態のまま3年になり、1つ下の後輩が入らなかったこともあり、今年度も女子部員が入らなかつたら、女子卓球部は廃部になると顧問から言われました。困った私は、新入生歓迎会で派手なパフォーマンスをして部員を集めることにしました。そのためには来ていない部員の協力が不可欠で、私は5人を集めて真剣に説得しました。話し合いはいやなこと言い合っただけでしたが、泣き出す部員もいて苦しいものですが、最終的にはみんな納得しパフォーマンスをしました。パフォーマンスはなかなかうまくいき、8人の新入部員を獲得しました。その後みんな手のひらを返したように部活に意欲的に参加し、私は少しいらいました。しかし大人になった今考えると、あの時の他の部員の気持ちもわかるし、この経験があったからこそ、今もがんばれるのかなと思います。

染矢夏実さん、NHK甲府放送局局長賞受賞

夏実さんが作成した「ハーフパンツ」が第29回山梨県中学校技術・家庭科生徒作品展で、NHK甲府報道局局長賞を受賞しました。おめでとう。



学習発表会(丹課発表会・定期音楽会)

12月5日(土)、寒さ増す折にもかかわらず約60名の方が見守る中、学習発表会を開催しまし

た。前半は学習の部(課題解決学習発表会(丹課発表会))。「丹波山村 過去 現在そして未来」と題し、総合的な学習の時間に、生徒が各自決めたテーマを調べまとめたことを発表しました。

会の中では、ご来賓の方から「炭」にする木について、グリーンロードについての詳しい補足がありました。また、村長さんからは「生徒の皆さんの提言を受けて、議会でも丹波山村の活性化のために検討したい」との話もありました。さらに教育長さんからは「来年度はさらに研究を進めていただき、この発表会で行う『丹波山村の未来』について子ども議会を開催し、村長さんや役場の方に回答いただく機会を設けたい」との話があり、前進した会になりました。

嶋崎龍弥	丹波山村の食べ物
高木 倫	丹波山村の山菜
岡部晃也	丹波山村のきのこ
船木俊成	丹波山村の炭
廣瀬 賢	丹波山村の養蚕
近藤友香	丹波山村の野鳥
染矢夏実	丹波山村のお勧めの風景



後半は芸術の部(第28回定期音楽会)。全校音楽活動の他、各学年が工夫を凝らした出し物も披露しました。また、村の有志の方の演奏や音楽の専門家による特別演奏もありました。特に、特別演奏では、本校生徒と全職員が合奏した「オペラ『カルメン』より第1幕への前奏曲」をさらに音楽的響和をもたすために「ババネラ」と「闘牛士の歌」を独唱してくださりました。迫力ある声と体を使った表現はとても参考になりました。

